

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100748		
法人名	セントケア和歌山(株)		
事業所名(ユニット名)	セントケアホーム城北(2ユニット)2階		
所在地	和歌山県和歌山市東布経丁3-6		
自己評価作成日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	令和3年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=3090100748-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>お客様第一主義を念頭に置いて、お客様の要求を満たすことです。 お客様第一主義とは、お客様に感謝すること、お客様の立場で考え、行動することです。(言葉と態度) お客様、お一人お一人としっかりと向き合い、その人らしい暮らしを大切に出来る事、したい事、好きな事に寄り添いながら、個別ケアも実施していき、想いに寄り添い地域に密着した生活を支援させていただきます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>入居者が、安全・安心で日々の生活環境を大切に心地よく過ごすことを基本指針として掲げ、毎年度、法人と事業所において確認のうえ、管理者及び職員が一丸となり支援に取り組んでいる。看取りについては、家族・協力医・訪問看護師で本人及び家族の想いを汲み取り、情報の共有を図りながらきめ細かな対応がされている。職員の育成については、「やさしいケアを届ける」ことや「ユマニチュードケア」について、専門知識を深めるとともに、言葉掛け等でその人らしく自由な暮らしが送ることができるよう努めている。コロナ禍の現在、地域とのつながりや日常の環境と暮らし方に配慮ができるよう検討している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で輪番制にて理念の唱和を行い理念の共有に努めている。	法人理念を元に、毎年度管理者が事業所の理念を作成し職員と共有している。福祉コミュニティー・生きがい・ケア産業を重点とし環境整備にも力を入れ入居者の安全と安心を大切にしている。	日々の支援において、理念を具体化していく取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	年1回、近所の落ち葉掃除をさせて頂いています。地域の防災活動にも参加している。	自治会に入っており、回覧板にて、地域の活動や行事などの情報を知ることができている。また、夏祭りや運動会においては、地域の方に参加いただくなど、地域とは、日常的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は、コロナの影響で、会議は行っていないが、提案や事例を発信している。毎週、小規模ではあるが、認知症の研修を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今はコロナの影響で会議は行えないが、2か月に1回運営推進会議の資料を作成しホームでの取り組みなどをご報告し、協力機関を築けるように取り組んでいる。	現在、コロナウイルス感染症予防のため、開催はできていないが、コロナ憲章・地震時の避難経路等の取組みについて、資料を届けるかたちになっている。過去には、運営推進会議にて、プライベートケアを教わり職員で共有を図ったこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターのご担当者様には、頻回に取り組みをご紹介している。	地域包括支援センター職員とは、頻繁に相談できる関係性を築いている。地域会議の開催は、フェイスブックを活用して実施しており、情報を取り入れることに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回『虐待研修』を実施し、虐待とは何か。グレーゾーンと言われる行為も含めて留意している。	セントケアセッションを実施し、「やさしいケアを届ける」ことについて、職員4～5人ずつに分かれ研修を行っている。言葉使いについても、いつも丁寧に接することを心がけるとともに、入居者が話しやすい雰囲気づくりに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回『虐待研修』を実施し、虐待とは何か。グレーゾーンと言われる行為も含めて留意している。権利擁護研修も受けており営業所で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されているお客様1名。その方にも運営推進会議にご参加頂き学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様にご理解いただけるよう、書面と口頭を持って丁寧に説明している。随時、要望・疑問がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に電話でご意見やご要望をお伺いする。年1回お客様満足度調査を行い、内容を会社・スタッフと共有している。	家族との面会はズームで行っている。毎月、家族レターで様子を知らせ、電話で意見や要望を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼でスタッフの意見、提案を聞く時間を設けている。朝礼以外でも、常にスタッフの意見・提案を確認して実現に努めている。	年度末には個人面談で意見を聞く機会を設け、業務における困りごと等には、管理者は積極的に現場に出向き、職員と共に検討のうえ、解決できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別面談を実施し、各自の目標・課題を確認共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を策定し、研修の実施。スキルに応じ、有料研修の受講も会社負担で実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインによる勉強会の参加や会議の参加により、情報交換を行っている。講習会にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際には、ご本人様と事前に面談をさせていただきお話をお伺いする機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に不安やご要望、疑問点を聞き取りし、関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談時にお客様とご家族様のお困りごと、ニーズを把握し、各サービスを含めたご案内を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様とのコミュニケーションを重視し、今の想いを理解しケアに繋げるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時以外にも随時お客様のご様子の報告や相談を行っている。コロナの影響で面会できない時も、リモート面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今は、コロナの影響で難しい状況ですが、馴染みの方との関係が途切れないように支援しています。	コロナ禍以前は、入居者の息子さんごが墓参りに連れて行ったり、月1回自宅に帰り泊まる機会があり、馴染みの人や場との関係継続はできていた。現在は、入居者の安全を第一に考え、外出が難しい状況である。また、エコマップの活用の取り組みを検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、お客様同士の関係性の構築に努めている。居室にいるお客様も定期的にフロアに誘導の声掛けを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	各関係機関との連携を行い必要に応じ、相談や援助に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご意見やご要望を把握している。困難な場合には「お客様第一主義」に努めている。	入居時に、家族より今までの生活をメモリーブックに記入してもらいパーソナルファイルを作成している。日常での会話から思いを汲み取り、忘れていたことには、共に考え思い出せるよう寄り添うことに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時にメモリーブックを記入して頂き、今までの生活を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	メモリーブックやご家族様、関係者、ご本人様から情報収集を行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンス・毎朝の朝礼時に、現状の課題の集約、課題解決に向けた方法を話し合い介護計画に反映していく。	介護計画には、入居者が喜んで事業所にて生活ができるよう検討を重ね作成している。3ヶ月毎のモニタリングは、日々の記録及び職員から意見を出し合い見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と日々の記録が繋がるように努め、スタッフ間で情報共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるサービスについて、様々な側面から考え、生まれた選択肢をご家族様を交えて共に検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を把握し、お客様一人ひとりに応じ今までの暮らしをできるだけ継続できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の主治医や希望の病院で医療を受けられるよう支援している。	入居時に希望を聞き、本人が望む継続した医療が受けられるよう支援している。また、月1回協力医の往診があり、法人内の訪問看護師と連携している。薬については、薬ロボットで管理のうえ、飲み忘れの無い取り組みがなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション城北との医療連携契約を行い、週1回の訪問、必要時に相談、対応してもらえる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、コロナで面会禁止が多いので電話で関係者との情報交換、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約の際に、グループホームでの看取りについては説明している。また重度化した場合は再度ご説明し関係機関とカンファレンスに取り組んでいる。	看取りについては、家族・医師・看護師と話し合い情報の提供及び共有を図っている。24時間体制で訪問看護師が対応でき、職員も積極的に対応に努めている。家族が事業所に泊まって最期を看取ることができた経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の研修の実施。朝礼での読み合わせ。順次、消防署等の講習会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練の実施。運営推進会議や地域活動の中で協力体制構築に努めている。	避難訓練では、入居者と一緒に避難場所に向いて確認を行っている。また、消防署の立ち会いのもと、消化訓練も行っている。夜間を想定しての避難訓練も実施しているが、職員全員の参加が難しく今後の課題でもある。年2回、備蓄品の確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、押し付けにならないようにご本人様の意思を主体とし排泄・入浴など同性介護を意識している。	ユマニチュードケアを取り入れ、朝礼にて入居者の身体機能の維持や話しかけを共有し、重度であってもその人らしさに寄り添う支援がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がご自身の思いや希望を表すことができる環境作りに努めている。計画作成は、アセスメント・モニタリングを行い、ご本人様の思いを聞かせていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースを大切にし、入浴時間やお食事等その日の体調や気分、ご希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容にカットして頂いたり、洋服もご自身で決められるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	五感を感じながら、残存機能を活かして頂き、自立支援に向けた支援を心がけている。	月1回は、食事レクリエーションとしてお好み焼きを作ったり、お誕生日会では特別メニューを作成するなど入居者の食事が楽しくなるよう配慮している。食事介助が必要な入居者が増えているが、出来るだけ自立できるよう工夫も凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれたメニューとカロリー計算された食事が本社より配信されており、お客様の食事形態に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。状態に応じた用具を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、お声掛けにてトイレでの排泄介助を行っている。	トイレの場所に印をつけてわかりやすくし、声かけや誘導で排泄に取り組んでいる。日中と夜間で、リハビリパンツとパットの使い分けの工夫をしている。排便が無いときには、便器に座る時間を設けるなど、個々に配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にはヨーグルトやバナナを提供し、水分量の確保にも努めて		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様のペースを大切に、入浴時間や食事等その日の体調や気分、ご希望に添えるように支援している。	週2回、基本的に午前中の中入浴を実施しているが、重度の入居者へは午後機械浴への対応を行っている。入浴を拒否する方には、声掛けのタイミングを図るとともに、入浴の際も二人介助による支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の体調に合わせて休息できるようにし、夜間眠れない時には傾聴しホットミルクなどを提供させて頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ロボットを使用し、誤薬や飲み忘れを防止している。薬はファイルで確認できるようにしている。臨時薬は、配薬ケースにて個別で管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様とご一緒に洗濯・掃除をお手伝いして頂いたり、温かい日はホームの回りを散歩したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナの影響で通院以外の外出は禁止ですが、近隣のお散歩にはお出掛けしている。ドライブに出掛ける。	コロナ禍以前は、家族が外出に連れて行くなどできていたが、現在は、入居者の安全を第一に考え、少人数で順番に散歩に出かける等の対応を行っている。また、訪問リハビリによる体操や運動を通して入居者のストレスが少しでも発散できるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族様のご希望に添いお金を所持している。支払いなどの際はできるだけご自身でできるように支援している。移動スーパーにも来て頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯や事務所の電話を通じてご家族様と連絡を取られています。リモート面会も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた色で空間を統一しています。温度計・湿度計を置いて、日中は太陽の光を取り入れたり季節のポスターを貼る等、日・季節を感じる事が出来るよう努めている。	事業所は、清潔を心がけ、ゴミはすぐ拾い入居者とともに箒とちりとりにて掃除を行っている。環境整備にも取り組んでおり、特にトイレは、管理者・職員ともに決めた時間に掃除している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置を考慮し、お客様のお気持ち、関係性を大切にできるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやご家族様との写真等ご本人が馴染みのあるものを置き、居心地よく過ごすことが出来るよう工夫しております。	居室は、入居者の思い出の品である、仏壇や位牌、趣味のギター、使い慣れた布団等が持ち込まれ、好みの配置にすることができる。また、夜間には、転倒防止のため床にマットレスを敷くなど入居者一人ひとりへの配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	真の喜びとは、ご自身での役割を持って自立に向けた生活が出来ることである事を認識し自立支援に向けた環境が提供できるように努めている。		